

学校法人北里研究所報

新年号

北里研究所旧本館（博物館明治村）

謹賀新年

相模原キャンパスに次々と竣工した学部新棟
上段：未来工学部棟 中段：看護学部棟 下段：医学部棟

年頭のご挨拶

学校法人北里研究所理事長

浅利 靖



新年おめでとうございます。教職員の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのことと存じます。まずは教育・研究・医療・法人運営への日頃のご尽力に敬意を込めて感謝申し上げます。

昨年2024年は北里研究所が創立110周年を迎え、北里柴三郎博士の肖像画がデザインされた新日本銀行券が発行されるという本法人にとって大変記念すべき年でありました。相模原キャンパスにおいては未来工学部、看護学部、医学部新校舎が竣工し、教育施設設備もさらに充実しました。2025年は北里研究所創立111年目の年として、さらに歩みを進めていきたいと思っております。第22期理事会施策の大きな柱には「研究力の強化」「国際化の推進」等を掲げ、砂塚学長とともに法人・大学一体となって理事会施策を遂行してまいります。今年には2015年に大村 智北里大学特別荣誉教授がノーベル生理学・医学賞を受賞されてから10年目の年であり、「研究の北里」として研究力のさらなる強化を目指します。砂塚学長のリーダーシップのもと学内の研究に横串を刺して活性化する取り組みを進め、海外との研究交流を増やすことで国際水準の研究者を育成し国際化も推進していきます。教学面では、4月に獣医学部グリーン環境創成科学科が相模原キャンパスに誕生し、未来工学研究科博士課程の2026年4月開設を目指し申請予定です。また相模原キャンパスのシンボリック建物として新大学図書館も完成予定ですので、学生の皆さんの修学意欲がさらに向上し、充実した学生生活の一助となることを願っています。

昨年は理事長就任後に、砂塚学長とともに十和田キャンパスと新潟キャンパスと北本キャンパスを訪問し、それぞれのキャンパスと各学部が持つ魅力を再発見するとともに、直面する課題について意見交換を行いました。また周年記念事業を完遂し、改めて当法人が非常に多くの方々を支えられ、教職員の皆様お一人お一人の努力があってこそ法人の歴史が積み重ねられてきたことを実感しました。北里柴三郎博士を源流とした北里研究所の歴史を未来につなぐために、教職員の皆様とともに叡智を集結して今後もあらゆる課題に真摯に向き合い歴史を繋いでいきたいと考えています。人口減と少子化が予測を超えるスピードで進み、将来予測が難しい時代ではありますが、これからの時代に選ばれる大学・病院であり続けるために、まずは本法人・本学が持つ魅力を情報発信して認知度を高める必要があると考え、昨年12月に理事長直下に広報室を設置しました。新札発行というこの上ない好機を生かし日本のみならず世界にも北里研究所・北里大学をアピールすべく広報活動をさらに強化します。法人運営においては、収支の赤字改善を目指して財務体質の見直しを着実に進めなければなりません。特に病院群においては、医師の働き方改革により人件費が増加する一方で、診療報酬制度により収入を増やすことが難しいことは多くの大学病院が直面している非常に難しい問題ですが、法人一丸となってこの難題に向き合い一歩ずつ改善に向けて取り組んでいきましょう。今年4月には大幅に改正された私学法が施行されます。本法人でも法改正対応に伴う寄附行為の改正に向けて慎重な議論を重ねて対応し、評議員の皆様への丁寧な説明を心掛けて昨年11月の評議員会で満場一致で了承を得ました。今後もガバナンス体制を強化し、健全な法人運営に努めていきますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

第22期理事会のミッションは「建学の精神を未来につなぐ」です。「開拓」「報恩」「不撓不屈」「叡智と実践」というこの4つの建学の精神は、学生や教職員が困難を乗り越える際の羅針盤になるものです。昨秋、北里柴三郎博士の生家がある熊本の小国町を訪問し、私自身も建学の精神に立ち返り志を新たにすることができました。阿蘇山を望む雄大な景観素晴らしいところですので、教職員の皆様も機会があれば是非訪れてみてください。今こそ建学の精神に立ち返り、日本のみならず世界で輝く北里研究所・北里大学を目指してまいります。

結びに、教職員の皆様とご家族におかれましても、どうか健やかに過ごされますようお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

年頭のご挨拶

北里大学学長

砂 塚 敏 明



新年あけましておめでとうございます。

まずは昨年7月の学長就任以降、皆さまのご支援とご協力に対し心より感謝申し上げます。

就任後、出来る限り教職員の皆様方と直にお話しをする機会を作ってまいりましたが、様々な問題が出現する中で、課題解決に向けて取り組まれていることに重ねて感謝申し上げます。

昨年は本学にとって大きな変化の一年でしたが、本年も変革の一年となることでしょうか。4月には、青森県十和田市で教育を続けてきた獣医学部生物環境科学科を改組し、相模原キャンパスに学び舎を移し獣医学部グリーン環境創成科学科としてスタートいたします。この学科では、環境科学、自然科学、データサイエンス、農学などの多様な分野を学びながら、私たちが直面している深刻な環境問題や食糧問題を解決する専門知識を修得し、地球環境の未来を支える力を養うことを目指します。更に未来工学部は昨年の修士課程設置に続き、新たに博士課程設置の申請をいたします。

環境面では、医学部新校舎が竣工し、また相模原キャンパス大学図書館の建設も始まりました。キャンパスは、未来を担う学生たちのための学びの場となると同時に、最新の設備を備えた環境により、研究や国際交流の拠点としての役割も強化されています。

さて、22期の理事会施策では様々な重要課題が掲げられておりますが、学長として特に、「研究力の強化」「国際化の強化・グローバル化の推進」「次世代を担う人材育成」に力を入れていきたいと考えています。

北里大学には医療、動物、海洋生物、環境、理学、データサイエンスと多岐に渡る学部・学科・大学院があり、多くのユニークな研究が実施されています。それらに横串を差し、生命科学分野とデータサイエンス分野が手を繋ぐことにより、幅広い領域でヒトと動物、それを取り巻く環境を包括的にとらえた分野横断型の課題解決を目指す「ワンヘルス」へと拡大・発展させることが出来る、実現に向けて具体的な取り組みを実行してまいります。その第一歩として、本年3月1日には、全学部から有志を募り「第1回北里研究者サミット」を開催し、学内での交流を活性化してまいります。

また、学祖北里柴三郎博士はオランダ人医師マンズフェルトの指導を受け、ドイツに留学し、コッホ博士に師事をして国際的な功績を挙げ「実学の精神」で社会に貢献しました。北里大学はその学統を受け、グローバルな問題を解決する人材の育成を進めてまいります。海外の大学や研究機関との交流を更に促進し、共同研究や学術交流を増やしていくこと、また、留学生を増やし、在校生、教職員の国際的な経験を増やして国際化を推進することで、教育・研究の幅を広げることが出来ます。昨年9月には、ドイツのローベルト・コッホ研究所との合同シンポジウムをベルリンで開催しました。第16回目となるシンポジウムは2年ごとにベルリンと東京で交互に開催していますが、今般3つのプロジェクトで共同研究がスタートしました。国際的な共同研究体制を構築することで、グローバルヘルスへ貢献すること、国際水準の研究者を育成することが、北里大学の国際化の目指す先と考えています。

そして更に次世代を担う人材育成も強化してまいります。人材育成の大切さは優れた後進を数多く育てた北里柴三郎博士の生涯から学ぶことが出来ます。「人材」は「人財」であり、学生・教職員一人一人が北里にとってかけがえのない財産です。博士を学祖と仰ぐ北里大学だからこそ、今一度人材育成の原点に立ち戻り、北里の伝統と精神を受け継ぎ、実学の精神を胸に宿した人材を育てることが北里の社会的評価を高めオンリーワンの大学になるだけでなく、北里全体の組織力の強化に繋がると考えます。

世界中で様々な問題が起こり、目まぐるしく変化していく社会の中で、変わらないものを大切にしつつ変化に柔軟に対応していく、建学の精神を未来につなぐ北里大学が、皆様が誇れる大学であり続けるよう努力してまいりますので、引き続きご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

獣医学部グリーン環境創成科学科が開設されます。

獣医学部生物環境科学科が十和田キャンパスから相模原キャンパスに学びの場を移し、グリーン環境創成科学科へと生まれ変わります。

国が掲げる気候変動対策「2050年のカーボンニュートラル」に向けて生物多様性を保全し、グリーンバイオテクノロジーとデータサイエンスを連携活用した持続可能な食糧生産の基盤および温室効果ガスの排出削減に環境・農業分野で貢献できる人材の教育を行います。

環境問題解決に特化した新学科として環境科学、自然科学、データサイエンス、農学など、さまざまな分野をボーダレスに学び、環境問題を解決に導く力を身につけた地球のドクターを育成します。



相模原キャンパスで新大学図書館の建設が進行しています。

新大学図書館は、これまで収集してきた資料のような静的な知識だけでなく、ティーチングアシスタント（以下、TA）や教職員による動的な知識が集まる空間を目指しています。

また、それらの情報資源を活用できる学習・支援環境として、アクティブ・ラーニング・スペースと呼ばれる、複数の学生が集まり、図書館資料や電子情報を活用しながら議論が可能な空間やリラックスして学習ができるスペースが設けられる予定です。

さらに資料のICタグ管理や電子化、館内設備のIT化により、館内における利用状況の可視化、利用者のニーズに沿ったサービスを提供します。教育・研究・医療の場を通じて得た知識・成果を広く社会に還元していくための施設としてオープン予定です。



新図書館 南西面パース



新図書館 北西面パース